京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター講演会

征服期のマヤ人：個人的な絆（対人主義）から領土的絆（対地主義）へ
(Los mayas de la conquista: del vínculo personal al vínculo territorial)

講師：セルヒオ・ケサーダ（Sergio Quezada）氏
（メキシコ合衆国ユカタン自治大学教授）

この度京都外国語大学ラテンアメリカ研究センターでは、メキシコ合衆国ユカタン自治大学地域研究所社会科学研究部教授セルヒオ・ケサーダ先生をお迎えし、講演会を開催いたします。

セルヒオ・ケサーダ先生は、先スペイン期から植民地時代におけるユカタン地方の歴史学的研究で著名な研究者です。その関心はマヤ先住民の政治・社会組織、領域概念に向けられており、この地域の歴史を研究する者にとって、先生の著作は必読の書となっています。今回の講演では、まず先スペイン期のマヤ社会が個人的な結びつき（対人主義）に基づいて営まれ、人々は森（ジャングル）に分散して生活していたことから説き起こしていただきます。そして征服後、スペイン人は彼らを管理しキリスト教に改宗するために、「集住政策」を通して村（プエブロ）という形の領土組織モデルを彼らに押し付けたこと、これによって先住民社会を支える原理は、「領土」を基本に据えた結びつき（対地主義）に置き換えられたことについて、具体的にお話しいただきます。この問題は、現代のユカタン地方の先住民社会を考える上にも極めて重要であり、私たちに新しい視点を提供してくれるはずです。　ぜひご参加ください。

日時：2026 年 3 月 13 日（金）17 時 30 分～19 時 00 分

場所：京都外国語大学　１号館３階　１３２教室

講演形態：対面および Zoom によるオンライン

使用言語：スペイン語（通訳なし）

※参加費無料／事前予約要（↓こちらからお申込みください）

https://forms.gle/wGXPaCJ7zYs9huLq7

主催: 京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター